

【ふれあい餅つき大会】

12月9日(土)に、啓成公民館で啓成おやじの会主催の餅つき大会が開催されました。当日はあいにくの天候で参加者がやや少なめでしたが、地域の方と一緒に子どもたちは餅つきを楽しみました。



子ども用の小さな杵でしたが、初めての子は振り下ろすのに精一杯。経験者は心地よい音でついていました。できたての餅を、丸め方を教わりながら丸め、熱々をほおばりました。きなこ餅、あん餅、ぜんざいと味がかわる度にいただき、おなかいっぱいになりました。中には9個も食べた子もいたようです。

「去年より上手になったね。」「ていねいに丸めているね。」と声をかけてもらいながら、地域の方とのふれあいを楽しみました。

餅をつく前に、餅つきや鏡餅についてのお話がありました。参加した子の中には、鏡餅を見たこともない子もいました。鏡餅のお飾りの話を真剣に聞いている姿に、古くから伝わる日本の文化や伝統について、子どもたちに伝えていくこと、経験させることの大切さを感じました。今回参加した子どもたちは、よい経験をさせてもらいました。

今年も小学校に鏡餅をいただきました。玄関に飾ることはもちろん、鏡餅の話も伝えていきたいと思ひます。



お世話になった皆様、ありがとうございました。

米子市中学校教育総合研究大会

11月22日(水)に、米子市中学校教育総合研究大会が東山中学校で行われました。この研究大会は、市内にある中学校の先生方が一堂に会して2年毎に行われる研究会です。あいにくの雨と寒さの中での会でしたが、愛知県や熊本県、岡山県など県外から参加された先生を含め300人を超える先生方に本校の生徒の様子を見ていただいたり、教科ごとの分科会で熱心な協議を行ったりしました。大勢の先生に囲まれた公開授業にもかかわらず、生徒たちはいつもの通りに学習に取り組んでいました。日ごろ頑張っているという気持ちがあるからこそその見られても平気だという自信の表れだと思ひます。本校では引き続き振り返りの工夫やシンキングツールの活用について実践を深めながら生徒にとってより良い授業を目指していきたくて思ひます。

本校の研究実践に関わっていただきました多くの皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

冬休みのお知らせ

早いもので、もうすぐ平成29年も終わろうとしています。本年も地域の皆さまには、学校開放日をはじめ、体育祭、文化祭などの行事をご参観いただき、お礼申し上げます。また、交通立番やパトロール、あいさつ運動など、様々なかたちで多大なご支援をいただき、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

東山中学校の冬休み期間は12月27日(水)から1月8日(月)です。この間、生徒は家庭や地域で生活する時間が多くなります。どうぞ、引き続き見守り活動等のご協力よろしくお願ひします。

来年もよき一年になりますように生徒・教職員で力を合わせてがんばっていきたくて思ひます。

地域の皆さまもよいお年をお迎えください。

啓成校区の歴史散歩

米子の廃寺  
極楽寺 一乗坊③

この八右衛門の母の「妙丹尼」は尼となった後、若狭(現福井県)に行き、何かの機会に人魚の肉をたべて不老不死の身となりました。赤ん坊が生まれてだんだんと成長していき、やがて大人となり老人となつて死んでいくのに、自分はいつまでも変わらないので嘆き悲しみ、粟島に帰つて麓の洞窟に入り「八百比丘尼」と呼ばれたという説があります。

この「八百比丘尼」は実際に居た人物といわれ、『本朝神社考』にはこの比丘尼の父が山中に異人に出会い、人魚の肉をもらい家に持ち帰つたのを娘が食べて不老不死となったとあります。娘は嘆き悲しみ、やがて洞窟の中に入つて閉じこもり、村人の届けてくれる干し柿を毎日一個ずつ食べてを叩き、看經(声を出さずにお経を誦む)をして暮し一生を終えたそうです。粟島神社の八百比丘

(161)

亀尾八洲雄

尼の洞窟は島になつていた粟島神社の下にあつて、昔は舟で渡りその渡し賃は三文で「三文渡し」と云われていました。出雲の国「島根県」でしたが、埋め立てで陸続きとなつて今は米子に編入になつています。昔の地図を見つると粟島と彦名村の間に県境の線が引かれており、島根側に大きく割り込まれ未だに不満が残るといわれています。

漁師たちが舟でそばを通り、尼の音が聞こえると「比丘尼さん」は今日も元気だと言つて手を合わせていました。聞かなくなつたといわれ、お祈りします。私たちが少年の頃は洞窟の中に入ることのでき、ローソクに灯をともし、奥に入つて行くこと、息苦しくなつてきてあわてて飛び出してしまいました。今は穴も大分埋まつてしまつており、入ることはできなくなつています。